

3. 環境をめぐる動き

脱炭素（ゼロ・カーボン）に向けた動き



○パリ協定の採択



○菅総理所信表明演説

○菅総理所信表明演説（抜粋）

菅政権では、成長戦略の柱に経済と環境の好循環を掲げて、グリーン社会の実現に最大限注力してまいります。
我が国は、**2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに宣言いたします。**

○「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」（令和2年12月25日）が策定されるなど、脱炭素化に向けた取組が加速化している。

富国有徳の理想郷—しづおか
ふじのくに

9

3. 環境をめぐる動き

循環型社会に関する動き



○G20 ブルーオーシャンビジョンの共有



○エレンマッカーサー財団の論文
2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが海洋に流出すると予測されることを発表。

富国有徳の理想郷—しづおか
ふじのくに

10

3. 環境をめぐる動き

自然共生社会に関する動き

指標番号	指標名	目標達成度	既設目標に分類		
			達成	未達成	基準値以下
1. 生態系保全・再生の取り組み	1.1 生態系多様化の取組を推進する。 1.2 食生活に適応行動を推進する。	達成	未達成	基準値以下	
2. 生物多様性の保護・回復の取り組み	2.1 生態系多様化の取組を推進する。 2.2 生態系再生に積極的取組みをされる。	達成	未達成	基準値以下	
3. 生活環境の改善・美化の取り組み	3.1 有機栽培や共生栽培の取組を実施する。 3.2 地球温暖化対策に取り組む。	達成	未達成	基準値以下	
4. 持続可能な土木工事	4.1 地域開発に持続可能な土木工事を実施する。 4.2 生態学的視点を取り入れた土木工事を実施する。	達成	未達成	基準値以下	
5. 水資源の持続可能な利用	5.1 水資源が持続的に供給される。 5.2 各河川水質が改善される。	達成	未達成	基準値以下	
6. 省資源活動の推進	6.1 省資源活動の取組を実施する。 6.2 省資源活動の取組を実施する。	達成	未達成	基準値以下	
7. 循環型社会の構築	7.1 循環型社会の取組を実施する。 7.2 循環型社会の取組を実施する。	達成	未達成	基準値以下	
8. 廃棄物の減量化・資源化	8.1 废棄物の資源化や資源化されたもの。	達成	未達成	基準値以下	
9. 省エネルギー活動の実施	9.1 省エネルギー活動が実施される。 9.2 省エネルギー活動が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
10. 給排水の循環型社会の実現	10.1 給排水の循環型社会の実現が実現される。 10.2 給排水の循環型社会の実現が実現される。	達成	未達成	基準値以下	
11. ソーラー発電の活性化	11.1 ソーラー発電の活性化が行われる。	達成	未達成	基準値以下	
12. モビリティの活性化	12.1 モビリティの活性化が行われる。	達成	未達成	基準値以下	
13. 環境影響評価の実施	13.1 環境影響評価が実施される。 13.2 環境影響評価が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
14. 地域活性化の取組	14.1 地域活性化の取組が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
15. 生産活動の持続化	15.1 生産活動の持続化が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
16. 省資源活動の実施	16.1 省資源活動が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
17. 地域活性化の取組	17.1 地域活性化の取組が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
18. 環境影響評価の実施	18.1 環境影響評価が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
19. 地域活性化の取組	19.1 地域活性化の取組が実施される。	達成	未達成	基準値以下	
20. 環境影響評価の実施	20.1 環境影響評価が実施される。	達成	未達成	基準値以下	

○愛知目標の達成状況の評価報告書（2020年9月）

ほとんどの愛知目標について一定の進捗が見られたが、現時点で完全に達成できたものはない。

富国有徳の理想郷－しづおか
ふじのくに

11

4. 改定版第3次静岡県環境基本計画の評価と課題

評価

18の環境指標のうち、9つが数値目標の達成に順調に推移しており、一定程度の進捗は認められるものの、9の指標については目標達成に向けて一層の推進が必要である。また「静岡県緑化推進計画」、「ふじのくに生物多様性地域戦略」、「静岡県の気候変動影響と適応取組方針」など各分野の新規計画の策定や太陽光発電施設にかかる環境影響評価条例施行規則の一部改正などの進展が見られた。

区分	指標数（達成状況区分別）					計
	目標値以上	A	B	C	基準値以下	
I ライフスタイル・ビジネススタイルの変革			1	1		2
II 低炭素社会に向けた取組	1		1	1	1	4
III 循環型社会に向けた取組	1		1	2	1	5
IV 自然共生社会に向けた取組	4 (1)			2	1 (1)	7 (2)
計	6 (1)		3	6	3 (1)	18 (2)

富国有徳の理想郷－しづおか
ふじのくに

12

4. 改定版第3次静岡県環境基本計画の評価と課題

ライフスタイル・ビジネススタイルの変革

＜主な取組内容＞

- ◆ 地球温暖化防止活動に先端技術の導入や温暖化に関する実践活動など、顕著な功績のあった個人又は団体を知事が表彰
- ◆ 環境技術関連を含む9つの成長産業分野を支援するため、利子の一部を助成する県制度融資「成長産業分野支援資金」を実施。
- ◆ 森林環境教育指導者養成講座や緑化コーディネーター養成研修等を実施。



表彰式



森林環境教育指導者養成講座

＜主な今後の課題＞

- ◆ 企業による環境に配慮した事業活動を促進し、環境保全と経済成長を両立させるため、これまでに醸成した環境分野への投資が企業価値を高め、成長に繋がるという機運を具体的な取組につなげる必要がある。
- ◆ 将来にわたって環境保全を促進できるよう、人材の確保と資質の向上を図るとともに、若い世代への意識啓発、環境教育に重点的に取り組む必要がある。

富国有徳の理想郷－しづおか

ふじのくに

13

4. 改定版第3次静岡県環境基本計画の評価と課題

低炭素社会に向けた取組

＜主な取組内容＞

- ◆ 小水力、バイオマス等による発電の可能性調査や設備導入に対する助成や住宅用太陽熱利用設備導入に対する助成を実施。
- ◆ 環境負荷の少ないEVやPHV、FCVなどの次世代自動車の普及促進を実施。
- ◆ 地球温暖化防止アプリ「クルボ」を活用した県民運動を展開。
※この県民運動が環境省主催「みんなで減らそう レジ袋チャレンジ」キャンペーンにおいて、普及啓発部門の最優秀賞を受賞。
- ◆ 「静岡県の気候変動影響と適応取組方針」を策定し、適応策を推進。



クルボスター

＜主な今後の課題＞

- ◆ 宿内閣総理大臣による2050年カーボンニュートラル宣言を踏まえ、温室効果ガス排出量と吸収量が均衡し、排出量が実質ゼロとなる脱炭素社会に向けた取組が必要。
- ◆ エネルギーの地産地消と地域企業によるエネルギー関連産業への参入を促進し、地域経済の着実な成長につなげていく必要がある。
- ◆ 二酸化炭素の吸収機能や水源涵養機能等、森林の持つ多面的な機能を持続的に發揮させていくため、間伐や主伐後の造林等の森林整備を適切に実施していく必要がある。

富国有徳の理想郷－しづおか

ふじのくに

14

4. 改定版第3次静岡県環境基本計画の評価と課題

循環型社会に向けた取組

＜主な取組内容＞

- ◆県民一人ひとりの実践を呼び掛ける「静岡県海洋プラスチックごみ防止 6R県民運動」を展開し、清掃活動に延べ約40万人(令和元年度)参加するなど活動の輪の拡大。
- ◆産業廃棄物の適正処理の推進に貢献した優良事業者の表彰を実施。
- ◆公共施設での県産材の率先利用、オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザへの県産森林認証材の提供を通じた品質と供給力のPR等を実施。
- ◆水質管理や水道施設の維持管理を適切に行うよう各水道事業者への指導を実施。



海洋プラスチックごみ防止 6R県民運動 ポスター

＜主な今後の課題＞

- ◆コロナ禍の生活様式の変化に伴うごみ量や組成変化を的確に把握し、適切に対応する必要がある。
- ◆プラスチックごみの削減に向け、プラスチックごみ発生抑制と海洋流出防止に市町と連携して取り組む必要がある。
- ◆人口減少に伴う非効率的なごみ処理施設運営等の課題に対応するため、ごみ処理広域化等を推進する必要がある。
- ◆市町と連携して、家庭や事業所から排出される食品ロスの更なる削減を目指して取り組む必要がある。
- ◆水災害リスクの増大に対応し、水インフラの被害を防止・最小化するため、水道事業の基盤強化が必要である。

富国有徳の理想郷 -しづおか-

ふじのくに

15

4. 改定版第3次静岡県環境基本計画の評価と課題

自然共生社会に向けた取組

＜主な取組内容＞

- ◆本県の地域特性に応じた「ふじのくに生物多様性地域戦略」を策定。
- ◆野生鳥獣被害防止に向け、総合的・効果的な対策を推進。
- ◆「ふじのくに美農里プロジェクト」により、美しい景観や多様な生態系を育む農地や農業用施設の保全活動を支援。
- ◆県内の環境大気や公共用水域の水質の状況について常時監視を実施。
- ◆環境影響評価手続きを通じて、事業者に対し環境影響の回避、低減に配慮した開発事業の実施について指導。



ふじのくに生物多様性地域戦略

＜主な今後の課題＞

- ◆南アルプスの優れた自然環境の保全の重要性について、県民をはじめ国民から更なる理解を得ることが必要である。
- ◆ポスト時代における人々の森林への意識変化を的確に捉え、新たな森林空間の活用による観光需要の創出など、森林の多面的機能の発揮、山村地域の活性化、持続可能な森づくりを図る必要がある。
- ◆ニホンジカによる農林業被害の深刻化や生物多様性への影響が顕在化しており、I C T 等の新たな技術の導入による捕獲の推進や捕獲体制の強化が必要である。
- ◆環境への影響を回避・低減するとともに、住民等の理解を得るために、事業実施の及ぼす影響を十分に調査・検討し、環境に配慮した事業の実施を事業者に促す必要がある。

富国有徳の理想郷 -しづおか-

ふじのくに

16